

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成26年12月4日 (2014.12.4)

【公開番号】特開2014-137318(P2014-137318A)

【公開日】平成26年7月28日 (2014.7.28)

【年通号数】公開・登録公報2014-040

【出願番号】特願2013-6994(P2013-6994)

【国際特許分類】

G 0 4 G 3/00 (2006.01)

G 0 1 S 19/30 (2010.01)

G 0 1 S 19/23 (2010.01)

G 0 1 S 19/22 (2010.01)

G 0 1 S 19/05 (2010.01)

【 F I 】

G 0 4 G 3/00 Z

G 0 1 S 19/30

G 0 1 S 19/23

G 0 1 S 19/22

G 0 1 S 19/05

【手続補正書】

【提出日】平成26年10月17日 (2014.10.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 9 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 9 5 】

図 7 (A) は、捕捉される G P S 衛星の数が 7 ~ 8、衛星信号の強度が - 1 4 5 d B m、測位時間が 1 6 時間の条件での実験結果であり、図 7 (B) は、捕捉される衛星数が 3 ~ 5、衛星信号の強度が - 1 4 5 d B m、測位時間が 1 7 時間の条件での実験結果である。前者は、衛星信号の強度が小さいが測位計算に十分な数の G P S 衛星が捕捉される受信環境を想定したものであり、後者は、衛星信号の強度が小さく、測位計算に十分な数の G P S 衛星が捕捉されるとは限らない受信環境を想定したものである。図 7 (A)、図 7 (B) のいずれのシミュレーション結果でも、真位置との距離が小さい順に、最頻値、中央値、平均値であった。このシミュレーション結果から、測位計算により得られる位置の最頻値または中央値を選択し、位置固定モードにおける受信点の位置情報として G P S 受信機に設定することで、平均値を選択する場合と比較して 1 P P S の精度が向上することがわかる。